



# 専門・ 認定看護師の

だ ず ~  
DA・ZU~

第24号

専門・認定看護師会 令和3年2月発行

今年度、当院では新たに3名の認定看護師が誕生しました。  
それぞれの資格についてご紹介させていただきます。

## 認知症看護認定看護師

### 4A病棟 奥山 まり子



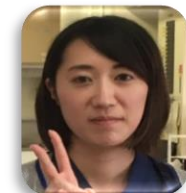
認知症看護の認定看護師教育課程を受講後、活動をさせて頂いております。認知症の人は、記憶や見当識などの認知機能の低下により、環境の変化への適応が困難となりストレスを抱えやすいです。入院という非日常的な環境のもとで、不安や恐怖を感じやすいことを理解して介入することが大切です。また、認知機能の低下により実行したいができない、言葉がうまく出てこないなど、今までできていたことがスムーズにできなくなることで、悔しい気持ちや葛藤を生じやすくなります。そのような辛い思いを汲み取り、本人の困っている場面で、さりげなく援助し、もてる力を発揮できる介入が大切です。認知症看護は、身体的、心理的、社会的な側面から全人的に患者さんをみて援助することが重要となります。

患者さんが安心できる物理的環境やスタッフの関わりなどの人的環境づくりをしていきたいです。また、認知症の人が生きてきた歴史に着目し、大切にしていることを守れるように介入したいと思えます。認知症の人と家族が、地域の中で安心して笑顔で過ごせることを目標に、多職種連携を行い援助をしていきたいです。

# よろしくお祈いします



## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 5A病棟 小林 楓



脳卒中を発症した患者さんは、治療がおわったあとも何かしらの後遺症を抱えて生活を送ることが少なくありません。手足の麻痺などによりそれまで行えていたことが、突然できなくなってしまいます。そのため、リハビリを行い、新たな生活方法を獲得する必要がありますが、そのリハビリには数か月程度の時間を必要とします。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、脳卒中の急性期～リハビリ期、自宅に帰ってからの生活期まで幅広く看護を行います。脳卒中の治療を行いながら早期にリハビリを開始することで、より効果的に回復を促すことができます。そのため、全身状態を管理しながら合併症を予防し、リハビリを行うことがとても重要です。

山形済生病院には急性期病棟だけでなく、回復期リハビリテーション病棟もあり、切れ目のない治療、看護、リハビリを提供できる環境にあります。その特徴を活かし、看護師、医師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーと連携し、患者さんが安心して自宅に帰れるよう支援していきたいです。

## 皮膚・排泄ケア認定看護師 看護部長室 植松 香



皮膚・排泄ケア認定看護師は、通称WOCナースと呼ばれています。Wはwound=創傷を意味しており、褥瘡(床ずれ)のある患者さんの傷のケアや、褥瘡が発生する危険の高い患者さんに対する予防対策などを行います。血流障害や糖尿病などの疾患に関連して発生した下肢の潰瘍のケアも医師と共に行います。Oはostomy=ストーマを意味しています。ストーマとは人工肛門を意味しており、癌やその他の疾患などによりストーマを造設された患者さんに対する専門的なケアを行います。ストーマや周囲皮膚の管理、ストーマ装具選択に関するアドバイス、日常生活に対するアドバイスなども行います。Cはcontinence=コンチネンスを意味しており、尿や便失禁に伴う機能の改善を促すケアや、失禁に関連した皮膚障害に対する改善と予防対策を行います。

皮膚・排泄ケア認定看護師は当院に3名在籍しています。これまでに院内はもちろん、関連施設へも訪問し幅広い活動を行っています。患者さんが安心して専門的なケアを受けることができるよう、患者さんや看護スタッフに対して支援していきたいです。